ＪＳＴ中国総合研究センターオープニング記念シンポジウム
～日中の科学技術分野における相互理解を目指して～

主催者挨拶１．沖村憲樹　独立行政法人科学技術振興機構理事長

ＪＳＴの理事長の沖村でございます。本日は中国総合研究センター発足の記念シンポジウムを開催いたしましたところ、このように多くの皆様に御参加いただきまして、心より御礼を申し上げます。松田科学技術政策担当大臣、阮在日中華人民共和国大使館参事官、林文部科学省文部科学審議官を初め多くの皆様に御参加いただきました。心より御礼を申し上げます。特に、はるばる中国から、陳国家自然科学基金委員会主任を初め、科学技術部、中国科学院、中国科学技術協会、中国東軟集団有限公司から、多くの要人の方に御参加をいただきまして、感激いたしております。心から御礼を申し上げます。この、中国総合研究センターが、単にＪＳＴの一機関としてではなく、中国政府、日本政府の御賛同を得てスタートできましたことは、まことに嬉しく、また、同時に身の引き締まる思いであり、心より御礼を申し上げる次第であります。

さて、日本は、太古の昔から中国大陸からの文明の影響を受けてまいりました。その後、中国と日本は、相互に緊密な文化の交流がありました。我々は、中国から来た漢字を使い、中国から来た思想、文化を学んで参りました。共通点は極めて多く、同じ東アジア文化圏にあります。一方、現代は、グローバル社会と言われ、米国及びヨーロッパ諸国が大きな影響力を持って世界が動いております。グローバル社会にあって、中国も日本も、より強いリーダー国を目指し、お互いに努力し、競いあい、高めあっていく必要があると思っております。しかし文化面において、中国と日本の直接の交流が細り、アメリカやヨーロッパを通しての交流が多くなっているような気がいたします。科学技術情報を見ますと特に顕著でありまして、両国とも英語を通じての交流が大部分となってしまいました。中国は日本語の科学技術文献を余り御存じないというふうに思います。日本もまた、中国語の科学技術文献をほとんど知らないのが現状であります。

中国は素晴らしい経済発展を遂げておられますが、科学技術の発展も、力強い、一貫した中国政府の政策により、さらに顕著であります。中国語を使う人口は中国の経済成長とともに急速に増加しておりまして、アジアを中心に、中国語は英語に次ぐグローバル・ランゲージとなる可能性があります。我が国は、中国語をより重視し、中国と日本の直接の交流の抜本的な強化を図る必要があると考えております。ＪＳＴは、５年前に、北京に中国支所を開設し、中国科学院とのナノ分野のプロジェクト、中国国家自然科学基金との環

境分野での交流等、中国と日本の交流に努力してまいりました。現在、中国語の文献のデータベース化を行っております。日本の情報を中国語で案内するポータルサイト「サイエンスリンクスジャパン」を新たに作成致しました。さらに総合科学技術会議、文部科学省から資金をいただき、（独）情報通信研究機構とともに、高性能の日中機械翻訳の開発を進めているところであります。

ＪＳＴは、このセンターの開設を機会に、中国に日本をもっと知ってもらう、日本において中国をもっとよく知る活動を強化し、中国と日本の交流の拠点としての役割を果たしていきたいと考えております。このセンターの設立に当たっては、センター長に御就任をいただきました馬場錬成先生、アドバイザリー委員会の委員長に御就任いただきました有馬朗人先生を初め、日本のトップの方々に、快く御賛同をいただき、御参加、御協力をいただいております。まことに心強く、心より御礼を申し上げる次第であります。中国総合研究センターの活動を一刻も早く本格化し、中国と日本の交流強化に貢献することをお誓い申し上げまして、重ねて、本日の御参加に御礼を申し上げまして、私の御挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。